

すくすく健やか! 山日YBS子育て応援プロジェクト

# すくすく 2010

## 清里の森で保育活動、小西さんが写真集

北杜市高根町清里に広がる森の中で保育活動をしながら撮影を続ける写真家・小西貴士さん(36)が、写真集「子どもと森へ出かければ」を出版した。キープ自然学校が行う「キープ森のようちえんプロジェクト」にかかわり子どもたちと向き合う小西さん。八ヶ岳南ろくの豊富な自然の中で考え、感じた『「らしさ」を大切にしたい』という子どものかかわり方を、写真集を通じて伝えている。

# 「子どもらしさ」輝く表情



「子どもたち一人一人を認めてあげることが大切です」と話す小西貴士さん

写真集中の1枚に、男の子同士が泥だらけになりながら取っ組み合いのけんかをしている写真がある。小西さんはこの写真を撮影した後、仲裁に入らずに見守り、その後2人は次第に仲直りした。「大人ではちょっと考えられないことが子どもの力だと起こり得る。この2人なら大丈夫だと思った」と小西さん。「禁止するというのが保育者の役目だと思ひ込み、『ダメだよ』と注意するだけだとその先の物語は生まれない」と感じた。

### 伝えたい言葉も

当然、毎回「待つこと」が

写真集「子どもと森へ出かければ」より  
小西貴士さん



正解だとは限らない。「子ども」の体の安全が脅かされたり、心が深く傷ついてしまったりすることがあると感じたりすることがあると感じたり止めてあげる」。その時その時の子どもたちと「響き合って」、どう対応するか判断しているという。「見極める力は、経験が少ななくても毎日接する子どもたちが教えてくれる」。1枚の写真から子どもの接し方へと話は広がる。

京都府出身の小西さんは10年ほど前から北杜市へ移り住み、2002年から清里の森で保育を行う取り組みに携わる。写真集はこれまで小西さんが撮りためた18万枚を超える写真の中から厳選した作品約70点で構成。四季折々の森の中で遊ぶ子どもたちを季節ごとに切り取り、写真とともに

## 自然の中で成長、70点収録

に伝えたい言葉も添えている。いろいろな葉っぱが 風にゆれます  
大きな葉っぱ 小さな葉っぱ 喰われた葉っぱ ゆりかごの葉っぱ

### 育児を楽しんで

写真集中の一節だ。「木々の葉っぱは一枚一枚形が違う。子どもたちも『これが良くてこれは悪い』ではなく、一人一人を認めてあげることが大切。森がそれを教えてくれた」  
9月28日午後に行われた野外保育には地元幼稚園の年長21人が参加した。午前中に降り続いた雨が残る木々を揺らしてできる「森の目薬」で遊ぶ子ども、つまむとキノコの赤ちゃん(胞子)が出るホクリタケを見て驚く子ども。森で出会った自然から多くのことを学ぶ。小西さんはこの日も子どもたちの喜々とした表情をカメラに収め続ける。おやつは散歩の途中で焼いて食べたおにぎり。子どもにおにぎりを持たせて、火も安全に配慮しながら子どもがおこす。「自分で作業したほうが、おやつもつまいし楽しめる。子どもが生き生きとできる環境を意識して作り出すことが大切」と話す。

「幼児期は人格の基盤をつくる時期で、一人一人の成長の度合いも大きく違う。子どもも『らしさ』を大切にしながら育ててほしい」と話す小西さん。さらに「親が『子どものため』に思い過ぎるのは苦しい。育てる側が楽しむことが一番」。森の中の子どもたちにレンズを向け続けて丸8年。輝く表情に接して、分かった思いを写真集に込めた。「子どもって、すてきだよ」